

わ
環の会の

テリングってどんなもの？

vol. 2 ～子どもたちからのテリング～



わ
認定NPO 環の会

<http://wa-no-kai.jp>

はじめに

この冊子を手に取ってくださった方は、どんな方でしょうか？

子どもを迎えて、これからテリングをどうしよう、と思っている方でしょうか？

子どもを育てているけれど、「真実告知」ができずに悩んでおられる方でしょうか？

環の会では、縁組により迎えた子どもを、大切な子どもとして温かく育てることができるよう、子どもを迎えた、その日から「テリング」により、声かけをしながら育てることを勧めています。

実際に、そのように育てられた「子ども」たちも、親になる時代になりました。

「刷り込まれた！」と本人たちは言っていますが、血が繋がっていないことを大前提にして、家族となっています。

まだまだ、人生を歩む途上にある「子ども」たち、そして親たちではありますが、そんな家族のようすについて、多くの方に知っていただきたいと思います。

<子どもたちに必要な「真実告知」って、何でしょうか？>

こども家庭庁を始めとして、多くの機関が「子どもが小さい頃から、真実告知をしましょう！」と推奨しています。

環の会では、「告知」という、一方通行で一時的な情報伝達ではなく、「あなたは、大切な大切な私たちの、待ちに待っていた子ども」「〇〇さん（産みの親）が守り抜いてくれた大切な命」「〇〇ママ（産みの親）が、あなたの幸せを願って、託してくれた子ども」ということを、日常生活の中で、伝え、さらに、子ども自身の気持ちを聞きながら、誠実に応じていくことを「テリング」と呼んでいます。

「真実告知」を英訳した「telling」ではなく「tell+ing（進行形）」つまり日常生活の中で話し続けましょう、という意味合いで、「テリング」と呼んでいます。

「具体的にどうしたらいいか、わからない」という声が多く聞こえてくるため、「こんな感じにしていかがでしょうか？」ということで、先輩たちの取り組みをお示した「環の会のテリングってどんなもの？」を令和5年に発行しました。

それに続き、今回は、テリングを受けて育った子どもたちが、今度はテリングをする側になっているようすについて、まとめてみました。

子どもたちの思いに、心を寄せていただければ、嬉しく思います。

お読みになってのご感想、ご意見、「これ、よかった！」とか「我が家では、こんな感じですけど…」「僕の場合は、こうだよ…」などあれば、環の会の事務局宛て、お知らせください。皆様の声を基に、この冊子を、さらに続編に繋げていきたいと考えています。

それでは第2弾の冊子、「子どもたちからのテリング」をお届けします。

環の会 代表理事 星野 寛美

友達や恋人に対するテリング

Q.あなたが友達や恋人に対してするテリングについて、
教えてください。

※環新聞 111号より抜粋、一部改変

・あまり周りには言っていません。しかし、数年付き合っ同棲している彼氏に最近伝えました。将来のことを考えたとき、伝えておかないといけなと感じたからです。相手は、驚いているようすもなく全て受け止めてくれました。

(Sさん)

・別に隠すことだと思っていないけど、言いふらすことでもない。遺伝とかの話になった時にしている。

将来、ハゲてしまわないか、という日常会話の中で、遺伝的傾向に話が及ぶ。その際、「大当たり確定親ガチャの引き直しをした」と伝えている。こちらかなりポップに話をしているので、相手にダメージや気まずさがあったことはほとんどない。

(Rくん)

・自分の仲のいい人には自分について知ってもらいたいので、知ってもらいたい人にはテリングしています。周りの反応は「大変だね」や「面白い経験だね」など人によって様々です。1つの他者の人生経験として、知ってよかったと思ってもらえていたら嬉しい、と思っています。

(Nくん)

- ・基本的に他者に対してテリングを行っていない。自身がテリングを日常的にされてこなかったことが主な要因。個人的に“隠すべきこと、話すべき内容ではない”と無意識に捉えてしまい、ネガティブな印象があるため。また、事情を知らずに養子に関わる質問をされた場合は、相手側の反応を考慮し、実子の体で回答するという対応をしている。

(Aくん)

- ・高校生ぐらいから友達に言うようになった。
「姉と似ていない」と言われたとき、自分の中で、産みの親に対して何も感じなくなったので言おうと思った。「え、家族誰とも血繋がってないの？」という反応だった。

(Mさん)

- ・私は自分の生い立ちについて自分から話すことはないものの、隠しているわけではないので聞かれたら答える、という考え方です。
高校生の時に友達と出身や家族の話になったのでテリングをしたところ、「複雑な話をさせてごめん、苦労したんだね」という反応をされました。

(Bさん)





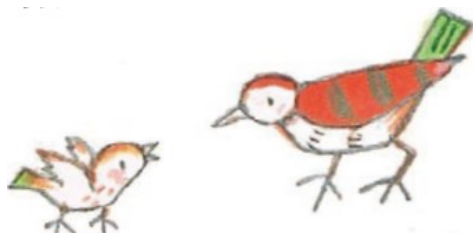
＜意見を集めたYouthからひとこと＞

環の会により、新しい家庭に迎えられ育った「子ども」をYouth(ユース)と呼んでいます。

環の会で縁組をして迎えられた子どもの大半は、ありがたいことに幼少期からテリングをされていると思います。Youthの皆さんのコメントを見ると、成長をして年齢を重ねるにつれ、テリングされる側からする側へと変化をしているかと思います。

私はこれまで、テリングとはYouthの子が出自を理解し、受け止めることができれば、テリング成功だと考えておりました。ですが最近、その先の、自らテリングを必要なタイミングで行うことができるようになること、それがテリング成功なのではないかと考えが変わりました。自分自身のことであると真に受け入れたからこそ、他者に話ができるのではないかと思います。

テリングは一生続くものかもしれません。ですが「テリング＝愛」だと私は思いますので、育て親の皆さんには一歩ずつ着実なテリングの実施をお願いしたいですね。



2分の1成人式

- Q. 小学4年生になると、2分の1成人式があると聞きました。
みなさんの学校は、それがありましたか？
あった場合、その時他の友達や先生にテリングをしましたか？
テリングを受けた周りの友達や先生、周囲の反応はどのようなものでしたか？

※環新聞 112号より抜粋、一部改変

- ・たまたま私は、生後8ヶ月まで乳児院に入っていたのですが、その時に写真をとっていただいていたため、産まれた時の写真はありました。
そのため、その写真を持っていきました。周りには、伝えていません。
(Gさん／22歳 座右の銘:意志あるところに道は開ける)

- ・あった気がします。
10年後の自分への手紙と自分の出自について話をしました。
その時にテリングをした気がします。
先生は泣いていて周りにはよく理解していない気がしました。
(Hくん／22歳 好きなもの:アウトドア)

- ・テリングという意識は全くなく、他の家庭と変わらないです。
ナチュラルにその場が流れたので特に印象もない。
結局、子どもたちってというのは、あまりシビアではない。そのため養子縁組だからといって気にしている子はあまりいないのだなと感じました。
(Cくん／20歳 座右の銘:FREEDOM)

- ・「2分の1成人式」という括りではなかったが、生い立ちの授業はあったし、中学校でも同じような内容の授業がありました。
小学校の時は、月齢がそれなりに大きい写真(5～8か月くらい)を持って行きましたが、特に何も言われなかったです。周りにはそんなに他人の記載内容を気にしていないと感じました。
(Dさん／26歳 好きなもの:オムライス)

- ・写真が少ないなあという思い出くらいだったので、特に問題なく作れたと思います。

その時先生にはテリングをしたはずです。

(Eくん／22歳 マイブーム:ドライフルーツ、座右の銘:Don't think just do)

- ・ありました！学校の先生にだけ、親が伝えて、友達には何も伝えませんでした。名前の由来を調べて産まれた頃の写真を見せながらその由来を発表する授業参観だったと思います。産まれたすぐの頃の写真はなかったため、また由来も産みの親から聞けておらず、ネットで調べたものだったため、当日はドキドキしましたが、周りはいそいそ自分への興味はなく、普通に終わりました。誰も何もおかしい、変だとは思わなかったようです。

(Fさん 好きなもの:温泉、岩盤浴)



<意見を集めたYouthからひとこと>

子どもは子どもなりにうまくやる、のだなということを強く感じました。これは私自身、大人になってからようやく理解できたことですが、人は人のことをそんなに気にして意識していない。だから、記載する内容に多少の創作が入っていても、そのせいで発表の場で、うまく話せなかったとしてもそんなに気にすることではない。

とは言え、こういった課題に直面する10歳の頃や、中学生くらいの頃は、その学校、そのクラスの中が自分にとって1番のコミュニティで、その中でうまく立ち回れない、普通じゃないことを言うのは不安に感じるのも分かります。そういう時は、今回ご紹介する私たちの事例をお子さんにお話ししてあげてほしいです。私たちの声が、みんなも大丈夫だったみたいだよ、と伝える根拠の一つになったら、嬉しいです。

周りにテリングして、思ったこと ～私の家族は普通じゃないのでしょうか？～

Iさん(大阪府 18歳)の場合

テリングを受けて育ってきた中で感じたことや思いを自由に書いてくれということで、早速書いていきたいのですが、まったく思いつきません。なので、これから書く話は、まったく考えつかなかったなりに絞りだした私の思いです。優しい目で見てください。

私は小学生の頃、友達に「私には育ての親とは違う産みの母がいるんだ」と言ったとき、友達が「このことは周りに伏せた方がいい」と私に言いました。わけを聞くと、「普通じゃないから」という理由で私みたいな子がいじめられたそうです。友達はそのことを知っていたので秘密にしてくれました。私はそのとき初めて自分の立場が、世間からみて普通でないことを知りました。

私たちきょうだいは物心つく頃には、「産みの母」という、もう一人の母親がいるということがなんとなくですが分かっていました。ずっと「[たちには産みの母というもう一人のお母さんがいるんだよ]と言われて育ってきたからでしょうか。そのためか、テリングを受けた後も「私ってお母さん、お父さんの本当の子じゃないんだ……だからなに？」という感じで過ごしてきました。だから、小学生でのできごとは衝撃的でした(第三者から言われると結構響きますよね)。

本当に私たちは変なんでしょうか？

普通とは何なんでしょうか？

辞書を引いたら「あたりまえであること」(新レインボー小学国語辞典から)と出てきました。では、お父さんがいて、お母さんがいて、お姉ちゃん、お兄ちゃんがいて、私がいて、ついでに猫もいて、泣いて、笑って、喧嘩して、励ましあって、時にはお母さん、お父さんを困らせて、また笑う。そんな私の家族は普通じゃないのでしょうか。きっと、この話を聞いた後、誰もが私の家族を変には思わないはずです。

私はテリングを受けて育ってきたなかで、こう考えます。家族のかたちは普通とか特別とかそんなことではないはずです。家族というのは(例外を除く)きっと、誰か一人かけたら成り立たないそんな奇跡の賜物だと思うんです(宗教じみていますが)。そして脆いものだと思うんです。脆いからこそ、助け合って成長していく。それが家族というものだと私は思っています。

皆さんはどう思いますか？

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

(環新聞 104号より抜粋、一部改変)

顔が似ていない家族 ～ギャグみたいにして終わりました～

Yさん(福岡県 26歳)の場合

うちのきょうだいもそれぞれ思春期はいろいろあったので、いじめとか不登校とか半不登校とか、それぞれあったんですけど、それが養子だったからというよりかはもう、なんだろう、普通に生きていく中で成長する中で必要だったできごとかなと思います。

うちが養子だからという理由ではなかったと思いますけど、そういうことがあって、それぞれ人として成長できたかなとは思いますが。

で、嫌なことというか、小学校の時に友達から、「Yんちって連れ子同士なんやろ」みたいに言われたことがあって、多分顔が似てないからかなとは思いますが、なんか変な情報がまわりまわって、連れ子同士の再婚の子どもなんやろ、みたいなことを言われて、でもまあ、それは逆にチャンスだなと思って、「いや全然違うけ」「うちは違うよ」「みんな全員血が繋がってないよ、ある意味おもしろい」みたいな感じで、仲いい友達にそこでカミングアウトはできたのでよかったかなとは思いますが。

やっぱり小学校の時とか中学校の時は友達ってそういうところが気になるのかなとは思いましたが、うちはみんなギャグみたいな感じで終わりました。そういうこともありました。

(環の会 第48回シンポジウムより抜粋、一部改変)

成人した「子ども」の立場から、育て親の方々にひとこと ～皆さん、自信を持ってください～

Yさん(福岡県 26歳)の場合

皆さま、育ての親御さんは、お子さんが「自分が養子でどう思っているか」って、気になってると思うんですけど、それと同じように子どもも「(育ての)親は、(養子として)自分を迎えてどう思っているのか」っていうのを知りたいって思っていると思います。

ときどき言ってるかもしれないけれど、大きくなっていくうちに、なかなか恥ずかしくて言えなかったりすると思うので、何か誕生日にでも、「あなたがここに来てくれてよかったよ」って言ってもらえると、とても嬉しいかな、と思います。

うちの親もそうなんですけど、なんか、「こんなお母さんで」とか「こんなお父さんで」みたいなのところもあると思うんですけど、もう、皆さんは、とてもお子さんを愛してくださっていると思うので、皆さん、自信を持ってください。子どもからでした。

(環の会 第48回シンポジウム報告書より抜粋、一部改変)



環の会が提唱している『テリング』

※「環の会が提唱している『テリング』に関する検討と提言」
(環の会、2008)より一部改変

<テリング>

子ども本人のルーツを知る権利を守るということは、育て親と子どもに信頼関係が育まれているからできることです。育て親は、産みの親の存在を、子どもを迎えたときから伝え続け、子どもの思いに耳を傾け続けることが大切です。

そのことを環の会では「テリング(Telling : Tell+ing)」と呼んでいます。「真実告知」を英訳して、テリングと称しているのではありません。

「テリング」は、ある時、ある瞬間をさすものではなく、育て親と子どもの信頼関係に基づくもので、生き方の姿勢そのものであり、連続的な関わりです。

子どもが乳児の時のテリングは、育て親の練習期間になります。その子のルーツである産みの親の存在をめぐる何気ない会話が日常的にできることにより、子どもは、父や母が産みの親を大切な存在であると考えていることを知ることができるでしょう。子どもは、産みの親の存在について育て親と話ができるし、育て親が産みの親のことをどう受け止めているかについて聞くことができます。



テリングで伝えたいこと

「テリング」を行うにあたっては、まず、「テリング」する側の人、自分の心の中に、産みの親に対して、優しく、温かい気持ちを抱いているかを確認することが大切です。

命をかけて子どもの命を守った産みの親がいること。そのおかげで子どもは無事に生まれてくることができたこと。産みの親には事情があって、育てることができなかったこと。子どもは望まれて生まれ、望まれて家族になったこと。皆に愛されているからこそ、新しい両親と出会えたこと。子どもは、産みの親のおなかの中にいたことを知っています、その思いを大切にしようとする。子どもを信じ、子どもの気持ちに耳を傾けること。

子どもも大人もお互いの存在を尊重すること…。

「テリング」はこういう方法が一番正しいという形はありません。

どんな時、どんな場所、どんな人にもありのままでいましょう。そして何よりも、子どもの今日までのこと、現在の状態、そして未来のすべて、ありのままを大切なものとして受け入れ、愛し育むことです。

もし、あなたが迎えられた子どもだとしたら、両親にどう接してもらいたいですか。

自分について何を知りたいでしょうか。自分に置き換えて考えてみるのも大切だと思います。

「テリング」は勇気のいることです。努力も相手への思いやりも必要です。人間同志の心が結びついたからこそ家族になることができます。

一方的に行うことはありません。子どもの年齢に応じて、工夫し、いつも、お互いの気持ちを大切に、関わり、交流し続けることです。



おわりに

テリングをしている子どもたちの思い、感じていただけたでしょうか？

子どもと共に過ごす時間が、豊かなものになるように、この冊子がいくらかでもお力になれば、嬉しく思います。

環の会では、「子ども」の立場の方々が、Youthとして、独自の活動を進めています。月1回、オンラインあるいはリアルでの交流をしています。関心がおありの方は、環の会事務局まで、ご連絡ください。お待ちしております。

「環の会のテリングってどんなもの？」(小冊子)と第48回シンポジウム報告書をご希望の方は、環の会事務局まで、ご連絡ください。



テリングってどんなもの？

vol.2 ～子どもたちからのテリング～

令和6年(2024年)3月25日 初版第1刷発行

発行者：認定特定非営利活動法人（NPO法人）

第2種社会福祉事業（東京都）

環の会（わのかい）

環の会事務局

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-23-13-502

TEL：03-3951-7270

<http://www.wa-no-kai.jp/>

E-mail：wa@wa-no-kai.jp

印刷所：三永印刷株式会社



* 本誌記載内容の無断転載を禁じます。

